

複数大学による合同野外実習の実践報告

○佐久間康〔東京経営短期大学〕 大橋信行〔東京経営短期大学〕

田代浩二〔NPO 法人体験学習研究会〕 内田 英二〔大正大学〕

キーワード：野外実習，合同開催，参加学生の意識

【研究の目的】野外教育における教育効果については、これまでの研究成果の蓄積と、1996年の「青少年の野外教育の振興に関する調査研究協力者会議」による「生きる力」の重要性の報告なども踏まえ、多くの大学・短期大学で野外活動・キャンプ実習などの形で実施されていることから確認できる。しかしながら、小規模の大学・短期大学において、参加人数の不足や指導者・運営費の確保等により実施困難な場合が少なくない。そこで今回は、そういった小規模大学・短期大学の野外教育実施のための具体策として、複数大学による合同野外実習の実践報告と参加学生の合同実施に対する意識調査について報告する。

【対象と方法】平成21年から平成24年に実施した合同野外実習に参加した複数大学の学生を対象として、各年のキャンプ最終日に実施したアンケート調査（無記名）について比較検討した。

【結果および考察】「新たな自分の発見」、「新しい仲間とのコミュニケーション」を目的とし、参加学生の受益者負担とする宿泊型教育キャンプとして複数大学学生の合同参加で実施した。アンケート結果から、合同での実施による教育的効果の有用性が確認された。

介護実習における福祉レクリエーション実践について

○南條正人〔東北文教大学短期大学部〕 高崎義輝〔仙台大学〕

キーワード：福祉レクリエーション教育、介護福祉士教育、介護実習

東北文教大学短期大学人間福祉学科では、人権を尊重する基本姿勢と深い人間愛、豊かな人間性を兼ね備えた、介護福祉における基礎的な実践力を有する人材の育成を目的とした介護福祉士を養成している。その介護福祉士教育の特徴は、福祉レクリエーション関連科目を多く設定するとともに、介護実習での福祉レクリエーション実践(計画書を含む)を達成課題に位置づけ評価の対象とするなど、福祉レクリエーション支援も出来る介護福祉士を養成することである。こうした取り組みは、地域の介護福祉施設から高評価を得ている。

本研究では、東北文教大学短期大学部の介護実習における福祉レクリエーション実践を通して、学生が何を学び、介護福祉士として福祉レクリエーションの必要性をどう感じたかについて、アンケート調査を行い、その結果を考察する。

対象の介護実習は平成24年8月16日からの27日間で実施され、介護実習終了直後にアンケート調査を実施した。また、施設の実習指導者に対しても同様のアンケート調査を実施した。アンケートの詳細な結果については学会発表当日に報告することとする。